

国際物流業界トピックス

総量6.7万トンで過去最大

■羽田国際上屋2社<7月>

本紙が集計した2026年7月の羽田空港の国際貨物上屋2社の国際貨物総取扱量（速報値ベース、郵便除く）は前年同月比3.5%増の6万7245トンだった。単月としては同年5月実績（6万6627トン）を上回り、過去最大を更新した。

総取扱量を上屋別にみると、東京国際エアカーゴターミナル（TIACT）

が5.6%増の4万1997トンだった。一方、全日本空輸（ANA）は0.2%増の2万5248トンとなり、2カ月ぶりに増加した。

TIACTの取り下ろし量のうち、他空港転送を除く羽田着の生鮮貨物は2318トンだった。品目別内訳は、サーモンなどの水産物が60%、チェリーなどの果物が27%、オクラなどの

羽田国際上屋2社の7月の貨物取扱量

		実績(トン)	前年同月比(%)
TIACT	積み込み量	19,604	106.7
	取り下ろし量	22,393	104.7
	総取扱量	41,997	105.6
ANA	積み込み量	13,405	104.7
	取り下ろし量	11,843	95.6
	総取扱量	25,248	100.2
全体	積み込み量	33,009	105.9
	取り下ろし量	34,236	101.3
	総取扱量	67,245	103.5

※速報値ベース、郵便は除く

野菜が6%、切り花などの植物が4%、牛肉などの肉類が2%だった。